



1 国際コンベンション「Y-SHIP 2023」及び第12回アジア・スマートシティ会議について

横浜市主催により、特にGX（グリーントランスフォーメーション）分野における、国内外の機関や民間企業によるオープンイノベーションの実現に向けた国際コンベンションであるY-SHIP 2023の一環として、第12回アジア・スマートシティ会議（ASCC）が11月13日から15日の日程でパシフィコ横浜ノースにおいて開催されました。世界銀行やアジア開発銀行、シティネットなどの国際機関の協力を受け、44の海外都市・機関および日本からの代表を含む参加者が一堂に会しました。本年のASCCは「ゼロ・カーボンでつながるアジアの都市」というテーマのもと、脱炭素、スマートシティ、SDGs（持続可能な開発目標）・VLR（自発的自治体レビュー）などのテーマ別セッションで構成され、シティネット会員都市による持続可能なスマートシティ構築に向けた政策提言だけでなく、これまでの経験や最優良事例を発表する場となりました。また、アジア諸都市の都市開発プロジェクトにおける公民連携の強化に焦点を当てたビジネス交流会も開催されました。さらに、アジア諸都市のリーダーと国際機関の賛同のもと、横浜市長とバンコク都知事による横浜宣言を発表しました。詳細は[こちら](#)をご覧ください。



ASCC Website



Y-SHIP 2023 Website

2 シティネット SDGs 分科会セミナー

11月15日、「都市間ネットワークによるSDGsの推進 -VLRを起点として-」をテーマに、シティネットSDGs分科会セミナーが開催されました。シティネット会員、国際機関、民間企業、そして学術機関が参加し、各々のSDGsの取組や脱炭素に向けた取組を紹介しました。当日は20都市・機関から120名にご参加いただき、オンラインで約30名にご参加いただきました。セミナーは日英同時通訳で行われました。セミナーの様子は後日録画の配信を予定しています。



シティネット会員と登壇者

セミナーハイライト

セミナーのオープニングではみなとみらい本町小学校の生徒たちが昨年自分たちで作成したSDGsをテーマとした校歌「いろとりどりの未来」を披露し会場を沸かせました。発表に先立ち、児童代表は校歌に込められた自分たちのSDGsに対する思いを紹介しました。主催者代表として城博俊副市長がセミナー開会の辞を述べ、横浜市はシティネット会員や国際機関、また学術機関や民間企業と協力し、国際的な課題を共に乗り越え希望に満ちた未来を創造していくことを強調しました。続いて、国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）経済担当官サンジーヴァニ・シン氏がVLRに焦点を当てた基調講演を行い、SDGsのローカライズ的重要性、VLRのメリットやESCAPによる支援計画など非常に有益な情報を提供いただきました。



みなとみらい本町小学校による発表



城博俊副市長による開会の辞



ESCAPサンジーヴァニ・シン氏による基調講演

SDGsの取組を紹介するセッションでは、まずシティネット会員都市を代表し、横浜市、マレーシア・クアラルンプール市、ベトナム・ダナン市の3都市から、各都市におけるSDGsや脱炭素に向けた取組を発表しました。横浜市温暖化統括本部の遠藤拓也氏からは、第2回シティネット・ESCAPのSDG都市アワードを受賞した横浜市SDGs認証制度（Y-SDGs）の紹介、また、横浜市都市整備局上瀬谷整備・国際園芸博推進室の熊澤シェン絢氏からは2027年に横浜で開催される国際万博「GREEN×EXPO 2027」の紹介が行われました。Y-SDGsはSDGs達成に向けて積極的に取り組んでいる市内外の企業・団体を対象としたSDGs認証制度で、Y-SDGsの最上位の認定を受けている石井造園株式会社とJFEエンジニアリング株式会社の民間企業2社による取組紹介も行われました。横浜市と共にSDGs分科会議長都市を務めるクアラルンプール市からは、総務局副局長のノー・ナザリア・ビンティ・カマルディン氏によりクアラルンプール市のVLR策定プロセスやSDGsの取組分析についてご発表いただきました。また、ダナン市計画投資局副局長レ・ミン・トゥオン氏からは現在横浜市とESCAPの支援をもとに進めているVLR策定の進捗状況について報告がありました。発表資料については2024年1月31日まで[こちら](#)からご参照いただけます。



クアラルンプール市ノー・ナザリア・ビンティ・カマルディン氏による発表



IGES片岡氏がモデレーターを務めたディスカッションの様子



セッションの後半には、公益財団法人地球環境研究機関（IGES）の片岡八束氏がモデレーターを務め、登壇者とその他シティネット会員であるバギオ市、コロombo市、マカッサル市、サンタローザ市の代表と参加企業によるディスカッションが行われました。片岡氏は(1)VLRのプロセスとその結果の活用法(2)アクター間の協力体制について、参加者たちに問いを投げかけました。ディスカッションは都市代表からの励ましの言葉と、参加者らのSDGs実施状況の追跡調査に対するコミットメントの表明により締めくくられました。「いろいろどりの未来」に向けて、互いに学び合い助け合うことを会場全体で呼びかける場となりました。最後に、シティネット横浜プロジェクトオフィス所長栗田るみ氏の閉会の辞により、セミナーは成功裏に幕を閉じました。

3 シティネット会員によるネットワーキングセッション

11月14日には、シティネット事務局のクリス・ディ・ジェンナーロ氏を司会に迎え、シティネット会員同士の実りある交流と関係構築を目的としたネットワーキングセッションが行われました。13の都市・機関から28名が参加しました（シティネット会員8都市：バギオ市、コロombo市、イロイロ市、クルナ市、マカッサル市、サンタローザ市を含む）。

横浜市国際局国際協力部長富岡典夫氏が開会の辞を述べ、シティネット会員間の関係強化の重要性を強調しました。参加者は軽食をとりながら互いの自己紹介や意見交換を行い、その後シティネット横浜プロジェクトオフィス企画課長山腰章子氏がSDGsに関するアンケート結果の報告を行い、シティネット会員都市のSDGsの実施状況や課題について発表しました。発表資料は2024年1月31日まで[こちらから](#)参照いただけます。セッションの最後はシティネット事務局キム・ボヒョン氏によるシティネットの2024年活動計画の紹介により盛況のうちに閉会となりました。



シティネット会員らとの記念撮影



4 横浜市内視察

11月13日には、招聘都市・機関から100名以上の参加者を招待し、都市インフラの視察を行いました。ツアーAは3つのテーマ別コースに分かれ、環境省の公募により脱炭素先行地域に指定されたみなとみらい21の先進ビジネス地区を中心に行われました（コース1：グリーンエネルギーの推進、コース2：研究開発拠点および賑わい、コース3：環境を配慮したMICEとPPP）。また、ツアーBでは横浜市が管理する環境インフラ施設の視察をメインとし、鶴見区の北部第二水再生センターと北部汚泥資源化センターを訪問しました。



オリエンテーション



Aコース：みなとみらい21地区



Bコース：北部汚泥資源化センター

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1
横浜国際協力センター6階、パシフィコ横浜
TEL: +81-45-221-1214
E-mail: citynetyokohama@gmail.com



CITYNET Yokohama Project Office
supports the SDGs.